

index

2021 (第24号)

- 医師連盟委員長挨拶
- 兵庫県医師連盟定時委員総会議決事項
- 議員対談 衆議院議員 大串正樹氏
- 自民党との県予算編成に対する要望の回答
- 郡市区医師連盟だより(西宮市医師連盟)

兵庫県医師連盟ニュース



発行所 兵庫県医師連盟
〒651-8555 神戸市中央区磯上通6-1-11
Tel 078-231-4114
http://www.hyogo-ishirenmei.jp
編集責任者 松本 卓

医師連盟委員長挨拶



兵庫県医師連盟
委員長 松本 卓

党兵庫県議11人が神戸市内で会合を持ち新時代のリーダーを模索し総務省出身の若手官僚の擁立を決めた。

7月18日の投票に向かって兵庫県知事選挙が動き出した(告示は7月1日)。

兵庫県医師連盟は5月26日の

連盟執行委員会において兵庫県

知事選挙に対する討議(これを

含め3週連続で討議、連盟プロ

ジェクト委員会でも討議)を行

い、金澤和夫氏、齋藤元彦氏の

両名から求められていた推薦依

頼をどちらも可とせず、両者と

も推薦をしないことを決定し

た。郡市区医師連盟においては

自由な推薦をお願いすることも

に、是非とも棄権することなく

投票行動を全うすることを願

いしたい。この選挙が兵庫県の

命運を左右する極めて重要な選

挙であることは動かざる事実で

ある。

このような決定となったこと

は極めて異例なこと、その背

景には自由民主党が2つに割れ

て選挙戦を行うことが深く関係

している、その経緯を説明し

ておきたい。

令和3年3月11日の夜、自民

一方昨年から知事選挙の検討委員会でも知事候補選考を続けていた自民党議員団は副知事の金澤和夫氏にほぼ的を絞ったところであった。しかしながら自民党の一部の県議からは金澤氏擁立に異を唱えるものが出始めていた。それらが唱えるキーワードは「維新と戦えるか?」。

マスコミは連日大阪の吉村知事を取り上げ、維新に対する注目度は抜群との背景があり維新の影は兵庫県にも迫りつつあった。

少し私見を交え、大阪の吉村知事はコロナ対策でいかにも露出度は高いが、大阪を医療崩壊に陥れたのはまさに橋下・吉村の医療政策の失敗である。

彼らのやった身を切る改革は住吉市民病院の廃止、保健所の削減、公立病院の医療従事者の削減、看護学校の閉鎖など枚挙にいとまがないが、これらの行き過ぎた政策が大阪を医療崩壊に導いたことは明白である。

こうした中で急浮上したのが

大阪府の財政課長齋藤元彦氏(43)なのである。これを担ぎ上げたのが先の11名の県議なのであるがその思惑は「維新も乗れる候補だ」ということである。しかしここに先制攻撃をしかけたのは井戸知事であり、12月11日県議会最終日に引退を宣言したのである。後継に金澤氏を擁立する計画をしていた県議団の動きは速くその日のうちに候補者検討委員会を開き多数決で金澤和夫氏擁立を決定した。

ところがこうした中、兵庫県選出の国会議員が動き11人の県議並びに齋藤元彦氏を支持、3月24日に県議11人は自民党の会派を離脱。同時に齋藤元彦氏が立候補の意思を固めた。そして自民党本部も齋藤氏の推薦を決定するに至った。またほぼ同時に大阪市長の松井氏が支持を表明し、吉村知事も「兵庫の若いリーダーにふさわしい。全面的に応援したい。」と支持を鮮明にした。

以上のような経緯から今回の事象は、いわば自民党内のお家騒動であり維新との関係も不明瞭な点が多すぎるので兵庫県医師連盟としての明確な方針は定められなかった。

これまでの政策論争から兵庫県医師連盟は「維新の医療政策とは相いれない」ことだけは明記しておく。

兵庫県医師連盟定時委員総会議決事項

令和3年4月11日(日)に兵庫県医師会館で開催し、「令和3年度事業計画」、「令和3年度予算」、「令和3年度会費賦課徴収」の3議案について、原案通り可決されました。

(令和3年度事業計画)

医師の政治力強化を図り、もって「国民皆保険制度の堅持」、「地域保健医療活動の強化」、「平等で安全な医療提供体制の確保」並びに「医療経営基盤の確立」等各種施策の実現のため政治活動を展開する。

一、政治活動

- ①県下首長・議員に対してのロビー活動展開。
- ② 1) 県選出国會議員はマンツーマン方式による。
- 2) 郡市区医師連盟における地方自治体首長、選挙区県議會議員、市町議會議員へのロビー活動に対する支援。

②兵庫県議會議員との医療政策に関する意見交換会の開催

(医療政策勉強会等の開催)

③兵庫県議会主会派に対する医療政策実現化に向けての県予算化要望。

③ 医師連盟ホームページの紙面の充実。

三、対内活動

医師連盟会員への医療政策の啓発とそれを実現させる為の政治活動への参画意識の昂揚を図る。

- ① 医師連盟若手会員の育成。
- ② 医療政策を政治に反映させる方策の検討。

四、各関係団体との連携強化

関係団体との強固な連携のもと、医療施策の実現化の為の政治活動を展開する。

- ① 日本医師連盟との連携。
- ② 近畿各府県医師連盟(医師政治連盟)との連携。
- ③ 兵庫県歯科医師連盟、兵庫県薬剤師連盟との連携。
- ④ その他の関係団体との連携。

兵庫県医師連盟 ホームページ



医師連盟の主張や意見の広場、郡市区医師連盟の活動などを掲載し、随時内容を更新しています。

兵庫県医師連盟

検索

http://www.hyogo-ishirenmei.jp



川西市医師連盟委員長

藤末 洋

HIROSHI FUJISUE

衆議院議員 (兵庫6区)

大串 正樹

MASAKI OGUSHI

令和3年4月24日(土)

(於宝塚ホテル橋の間)

藤末洋川西市医師連盟委員長

(以下 藤末)

本日は大変お忙しい中、お時間を頂き誠に有難うございます。それでは早速ですがどうぞよろしくお願い致します。まずは大串先生のご経歴を改めてお伺いできますか。

大串正樹議員(以下 大串)

兵庫県出身で、高校は報徳学園。大学・大学院は東北大学で工学を専攻しました。大学卒業後は石川島播磨重工業(現IH I)でプラントの設計をしていましたが、それから政治の道を志し松下政経塾に入塾。その後、

な医療データを活用できる環境を早急に作らなければならぬと考えています。

藤末 エンジニアの道に進まれたから松下政経塾に行かれたきっかけは何があったのですか。

大串 日本は技術立国と言いながら技術者があまり大事にされていません。優れた技術を日本で開発して、それがものになっても、技術者がどんどん高給で外国に取られて技術の流出が続いています。液晶パネルがその典型ですが、もっと技術を大事にしなければならぬと思ったのが大きなきっかけです。古くは造船や鉄鋼もそうですが、日本が世界を席巻していた技術の多くが外国に取られてしまっているのも、もっと技術分野に強い国会議員がいなくてはならないと思って松下政経塾の門を叩きました。

藤末 医療も同様に専門性のある国会議員が必要だと思っております。

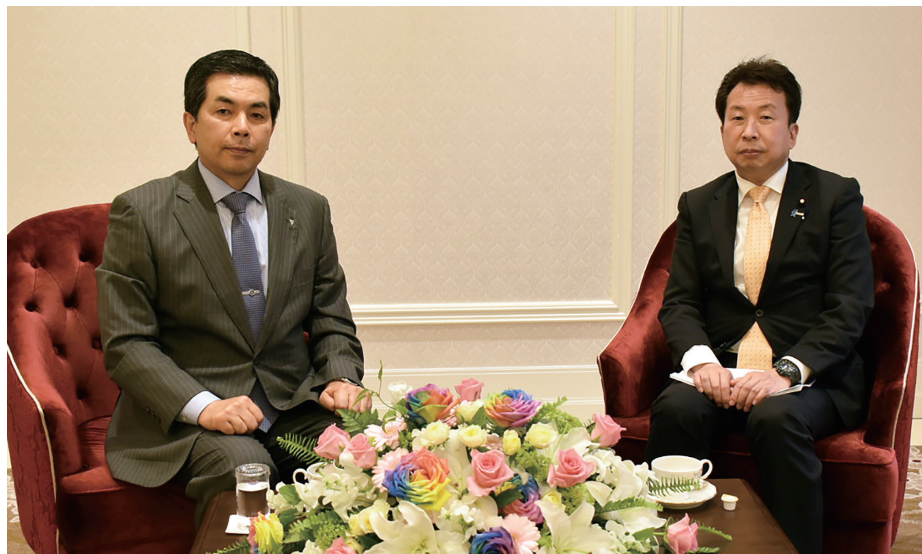
大串 今回のコロナに関しては医師出身の国会議員が活躍していて、海外の論文を読み漁って免疫の仕組み等を分析的に提言するなどしていました。やはり専門性のある議員が一定数いないと、コロナのような新しい問題が起こった時に対応できないと思います。

藤末 先生は社会保障も学ばれて地域包括ケアにも造詣が深く、非常に頼もしく思っていますが、厚生労働委員会にずっと入っておられる理由は何でしょうか。

大串 厚生労働分野は医療系もそうですけど労働系も非常に複雑な政策分野で、与野党対立案件が多いのが特徴です。理解には相当時間がかかりますので、議員になった当初から厚生労働分野の仕事はずっとやっていくつもりでした。一番、皆さんの関心がある分野ですし、誰も避けて通れないのが医療・福祉です。政治家としてここは十分な知識が必要だと思っております。

藤末 文部科学委員会のお話を伺えますか。

大串 文部科学分野は幼児教育や初等中等教育、高等教育、科学技術や文化・スポーツなどいろいろありますが、私は大学院の教員をやっていたこともあり高等教育に関心があります。国会議員の中でPh.D.を持っていて、大学



藤末洋川西市医師連盟委員長と大串正樹議員

院教育をやっていた人が非常に少ないのが実情です。研究活動を通じて互いに切磋琢磨していくアカデミアの活動の大事さが理解されにくいのです。たとえば医療と情報科学をかけあわせて医療分野の情報化を進めて新しい診断システムを作るような、複数の領域が重なった研究をどんどんやっていかないといけないのですが、日本はそこが非常に弱くてタコソボ化してしまっています。私は知識科学という少し新しい経営学の分野で博士号を取ったのですが、これは人間の知識をいかに共有・活用するか

という議論です。具体的に言うと、小学校での先生の教え方にもノウハウがあるはずなので、その経験的知識を教員同士で共有すれば学校全体の指導力が高まるというマネジメントの研究です。そのあと看護分野にも関わりましたが、同様に数字ではなくて経験的な看護の知識をどうやって共有・活用するかというところが大事になります。このように教育と経営、看護と経営のように、研究領域が多層に重なる研究分野が伸びる仕組みを今から作らないと、どんどん遅れるのではないかと気がしています。

藤末 医療においてはいわゆる多職種連携と云って、私も実際に取り組んでいます。いろいろな意見を聞くことで、そこにヒントがあったり新しい発見や解決策があったりします。

大串 多職種連携というところも病院管理学会で発表したことがあるのですが、回復期リハビリ棟でPT、ST、OTと医師と看護師とソーシャル

ワーカーが連携しながら、それぞれが知恵を出し合って知識を総合して、いかに医療から福祉に繋いでいくかというところを研究していました。

藤末 コロナ禍でかかりつけ医の機能強化という話もあります。地域にある専門医や開業医などの医療機関の連携がこれからは欠かせませんし、かかりつけ医が情報管理の能力を磨いて、ゲートキーパーの役割を担って、多職種で連携していくことがやはり大事だと思います。

次に、憲法審査会ではどんなことをされていますか。

大串 自民党は党是で自主憲法の制定を掲げているので憲法改正をしたいのですけれども、野党は絶対に憲法はいじらないという姿勢です。ただ今回これだけコロナが拡大しても緊急事態条項がなく、何も規制が出来るなというのとは国としてリスクが高いですから、そこはやっぱり議論すべきだと思っています。

藤末 それから、金融調査会にも所属しておりますね。

大串 経済産業大臣政務官の時に中小企業対策とかをやっている、いろんな制度を後押しするにも金融について苦学意識を持たずにやらなければならないと思います。 (三面について)



大串正樹議員

(二面より)

特に医療分野では、コロナの
ような緊急時にいかに医療を支
えるか、サージキヤパシティを
確保するかというのを考えた
ときに、我々の行動も変わって
いかなければいけないし、それ
に対する財源のあり方や医療費の
あり方についても議論してい
かないといけません。

藤末 7月に実施される兵庫県
知事選挙についてはいかがです
か。

大串 知事選挙については誤解
されることが多いのですが、自
民党は総務省出身の齋藤元彦さ
んを推薦しています。

実は党として誰に推薦を出す
かということは最終的に党本部
が決めるというルールで、もし
地元の見解と国会議員の見解が
割れた場合には党本部で調整す
るといったことになっていまし
た。今回、前副知事を推すとい
うグループと齋藤さんを推すとい

いうグループがあって、県議団
が2つに分かれてしまったの
で、国会議員としてはとにかく
2人の出馬表明があって推薦願
が出た時点で2人から話を聞き
ました。これからの兵庫県の将
来を考えると、若いけれど非常
にしっかりしている齋藤氏にし
ようと、国会議員全員が一致し
て齋藤氏に決まりました。ただ
それでも前副知事を推す人達も
残ったので、最後は規定により
国会議員団と県連の役員で決
めるといったことになり、多数決の
結果、齋藤さんに正式に推薦が
決まりました。

自民党が調整を進めている間
に、同じく候補者を探していた
日本維新の会も齋藤氏に推薦を
決めてしまったので維新の候補
者と相乗りしていると思われが
ちですが、決してそうではあり
ません。齋藤氏自身は維新のよ
うな身を切る改革をやるつもり
はないし、最大派の自民党と
協力して県政運営を進めたいと
言っています。そのためにも全
ての自民党県議が最終的には足
並みを揃えられる環境を作って
いるところです。自民党は一本
にまとまっているのが本来の姿
です。

藤末 あと、衆院選の時期につ
いてはいかがですか。

大串 おそらく9月の総裁選の
前後ですね。コロナの状況にも

よりますが、解散総選挙でコロ
ナの感染が拡大するようなこと
があってはいけませんし、任期
ぎりぎりかなという気がしま
す。ワクチンがある程度行き
渡って、オリンピックが終わる
頃に感染の波が収束していくよ
うな雰囲気になっていけばばっ
てもいいと思います。

先程の多職種連携もそうで
すが、これからはサステナビリ
ティ・トランスフォーメーショ
ンといって、この人口減少社会
でいろんな機能を組み合わせ
て、持続可能な社会を実現す
るために何か必要かということ
を省庁連携で進めないといけませ
ん。非常に幅広い知識が必要で
すが、そういったところを政治
家としてこれからしっかり繋い
でいきたいと思います。

最後に、先生の今後の抱
負をお聞かせください。

文科省が社会保障教育というも
のを始めていて、子供達に医療
保険の知識とか年金の知識と
か、社会保障についてその意義
を理解してもらおうということ
をやっています。また、雇用政策
というものはあらゆる省庁の隙
間に入っていて、本来は厚労省
が管轄していますが、雇用を維
持するための人材教育というの
は文科省の管轄ですし、今後ど
んな人材が必要かということ
を考えた時に、経産省で「これか
ら日本はこういう技術を伸ばし
たいからこの分野の人材が必要
だ」ということになる、文科
省がその分野の人材教育に力を
いれるとか、こういう省庁の隙
間にあることが肝になっていま

自民党との 県予算編成に対する 要望の回答

令和2年9月4日に自民党県
議団との意見交換を行い、令和
3年度県予算編成に対する最重
点要望事項として、「新型コロ
ナウイルス診療に対する感染予
防支援（新型コロナウイルス
診療に必要な防護関連用具一式
を無償で供給）について実現方
を強く要請した事項について、
今年度は、新型コロナウイルス感
染拡大防止の観点から、令和3
年3月19日（金）午後2時より
Web会議にて、要望事項に対
する回答も含めた意見交換会が
開催された。



Web会議：松本委員長（右）・橋本（寛）常任執行委員（左）

自民党県議団からは、黒川治
（尼崎市）、谷口俊介（西区）、
山本敏信（高砂市）、浜田知昭（洲
本市）、富山恵二（相生市）、戸
井田祐輔（姫路市）の6名、県
医師連盟からは、松本卓委員長、
橋本寛常任執行委員、事務局2
名が出席した。

回答

医療資機材については、県に
よる一括発注、国からの提供、
民間企業等からの寄贈により確

保した資機材を状況に応じて、
医療機関等に提供してきた。
その結果、医療機関において、
県全体で概ね3か月分の使用量
相当の在庫が確保され、さらに
概ね6か月分の使用量相当を医
療機関に代わり県において保管
しており、医療機関への供給に
ついては、国の緊急支援システ
ム（G-MIS）等を活用して
行っている。
引き続き、医療資機材の充足
状況を把握しつつ医療資機材の
確保・提供に努めていく。



藤末洋川西市医師連盟委員長

都市区医師連盟だより

【西宮市医師連盟】

西宮市医師連盟は衆議院では兵庫第7区、第2区（西宮市北部は平成29年に兵庫第2区に変更）が選挙区であり、第7区では現在3期目で元外務大臣政務官の自由民主党、山田賢司氏を、第2区では現国土交通大臣で公明党の赤羽一嘉氏を、参議院では兵庫県選挙区において自由民主党の末松信介氏、加田裕之氏、公明党の高橋光男氏を、比例代表では自由民主党の羽生田俊

氏、自見英子氏をそれぞれ推薦しています。

また、兵庫県議会では自由民主党の北川泰寿氏、立憲民主党の栗山雅史氏、西宮市議会では自由民主党の坂上明氏、篠原正寛氏、上谷幸美氏、植田篤治氏、公明党の大川原成彦氏、山田増人氏、無所属の八木米太郎氏を推薦しております。

いしており、精力的に国政選挙、地方選挙に対処しております。この一年は新型コロナウイルス感染症のパンデミック下であり、例年に比して活動は制限されていますが、国会、県会、市会議員の先生方とは折を見てコロナ感染症対策の現状や対処法、問題点の把握、今後の地域医療構想の方向性など、地域に根ざした医療政策に対する話し合いの機会を数多く持っています。

今後も政党にこだわることなく、医療に対して医師連盟と同じ思いを持つ方を推薦し、共に医政活動を行っていき、西宮市民民へのより良い医療施策を行うために進んで行く所存です。

参議院議員 自見はなこは、議員活動や考え方を広く知っていただくよう、LINE登録を立ち上げています。

LINE登録にご協力をお願いいたします。

討議資料
安心の医療、介護、福祉を
次世代へ渡したい



参議院議員・医師
自見はなこ

〒100-8962 東京都千代田区永田町 2-1-1 参議院議員会館 504 号室
tel 03-6550-0504 / fax 03-6551-0504

LINE

兵庫県知事選挙

投票日 **7月18日** (日)

投票時間 **午前7時～午後8時** (一部の地域を除く)

投票日当日、仕事、買い物、レジャーなどの予定がある方は、**期日前投票**をすることができます。

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、**期日前投票**を積極的にご利用ください。

手続きはカンタンです(ハンコは不要)。

【期日前投票のできる期間】 **7月2日(金)～7月17日(土)**

- ※ 体にご不自由な方は、付き添いの方と一緒に投票所に入ることができます。
- ※ 投票所入場券がなくても、本人であることが確認できれば投票することができます。

詳しくは、住所地等の市区町選挙管理委員会へお問い合わせ下さい。

そろって投票しましょう！！